

平成27年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT27122 シジャン（市場）をぐるっとひとめぐりー韓国文化体験講座



開催日：平成27年7月26日(日)

実施機関：東京純心大学

(実施場所) 東京純心大学図書館

実施代表者：大竹聖美

(所属・職名) 現代文化学部・教授

受講生：小学5・6年生 7名・中学生 2名

関連URL：<http://www.t-junshin.ac.jp/univ/aden/141027123054.html>

【実施内容】

■工夫した点■

本事業の基となっている科学研究費採択課題は、①「植民地朝鮮における近代児童文学の成立と日本児童文学の交渉」（研究課題番号：19720084）、②「近代韓国における児童文化運動と韓国児童文学成立期の研究」（研究課題番号：24520409）、③「近代韓国児童文学における〈童謡〉〈童詩〉研究」（研究課題番号：15K02460）であるが、植民地期の朝鮮の児童文化についての研究成果を解説することよりも、「近くて遠い国」ともいわれる韓国の文化について、次世代を担う子どもたちに、植民地期のような偏見や価値観にとらわれることなく、新しい感性で広く隣国の文化に目を向け、理解し、親しんでもらうことを目的とし、以下の点に留意した。

①韓服（チマ・チョゴリ）を着た留学生が原語による韓国の絵本の読み聞かせをする。

②大学でコレクションしている韓国文化理解教材（絵本・伝統工芸品・服飾文化財）を展示し、異文化理解の助けとする。

③韓国料理のランチタイムを設け、テーブルごとに留学生を交えて一緒に食事をする事で文化理解と交流を深める。

④韓国の伝統工芸である韓紙工芸（羊の置物）の作品作りと韓服（チマ・チョゴリ）の試着を通して、子どもたちに韓国文化を体験的に学習してもらう。

■当日のスケジュール■

10：30-11：00 受付（東京純心大学事務局前集合）

11：00-11：15 開講式（あいさつ、オリエンテーション、科研費と研究に関するお話）

11：15-11：35 ミニ・レクチャーA：韓国の市場（シジャン）とその文化（講師：大竹聖美）

11：35-11：45 原語で聞く韓国の絵本（『ハンヒの市場めぐり』）読み聞かせ（留学生）

11：45-12：00 討論：市場で買い物をしたことがありますか？

12：00-12：10 ミニ・レクチャーB：韓国の韓紙工芸（外部講師：橋詰恵子、補助：留学生）

12：10-12：30 実習：①韓紙工芸体験（伝統文様入りの小皿を作ろう（前半））

12：30-12：35 移動・休憩

12：35-13：15 韓国食文化体験&留学生との交流会：韓国料理ランチタイム（学食）（補助：留学生）

13：15-13：30 ミニ・レクチャーC：韓服（チマ・チョゴリ）ってどう着るの？（講師：大竹聖美）

- 13:30-14:40 実習： ②韓紙工芸体験（仕上げ）  
 ③韓服（チマ・チョゴリ）を着てみよう （補助：留学生）
- 14:40-14:50 修了式（アンケート記入、「日韓文化交流子ども大使」授与）
- 14:50-15:00 写真撮影・解散

■実施の様子■

- 図書館にて「韓国の絵本と文化」を展示 ○韓国絵本の読み聞かせとミニ・レクチャー



- 韓紙工芸にトライ！今年は羊の置物を作ります

- 韓国料理のランチで留学生と交流



## ■事務局との協力体制 ■

会計管理と広報、備品準備は講座内容以外の管理運営はすべて事務局で行い、当日の会場設営及びプログラム進行、写真撮影などは実施代表者及びアルバイト学生が行った。

## ■広報体制 ■

大学及び日本学術振興会のHPを通して一般に広報するとともに、八王子市教育委員会の後援を申請し、市内の小学校に対象学年全生徒分のチラシを配布した。各小学校教室にてチラシが配布され、生徒が家庭にチラシを持ち帰ることで保護者へのイベント告知ができた。その他例年通り、新聞、雑誌、フリーペーパー等各種媒体を通して情報の掲載依頼を行った。

## ■安全体制 ■

特に危険を伴う作業等はなかったが、参加者を4～5名ずつの小グループに分け、それぞれに留学生の補助が付き、実施代表者、分担者がそれぞれのグループを見て回り、十分な指導に当たった。

## ■今後の発展性と課題 ■

韓国料理のランチタイム、韓紙工芸体験、チマ・チョゴリの試着など、各場面で留学生との交流を交えながら楽しく文化体験ができた。ただ、やはりチマ・チョゴリの体験試着の場面で、参加者の体格に幅があり、試着用チマ・チョゴリの不足と、サイズバリエーションの不備が気になった。毎年一着ずつ女子小学生用のチマ・チョゴリを増やしているが、次回実施時もさらに充実させる必要性が認められた。また、夏場の実施で汗をかくため、クリーニングなどのメンテナンスも必要である。

### 【実施分担者】

上原文丸(現代文化学部教授学部長、地域共創センター主任)、高橋千佳子(看護学部教授、国際交流委員長)

【実施協力者】 11 名

### 【事務担当者】

地域共創センター担当:丸山幸子、田中久子